

## 令和元年度第1回

### 鳥取市社会教育委員会、公民館運営審議会及び生涯学習推進協議会 議事録

日時：令和元年8月26日（月）午前10時～12時

場所：鳥取市役所第二庁舎 第一会議室

出席者：〈委員〉油谷委員、福田委員、山下委員、塩谷委員、山根委員、  
松田委員、山本委員、竹内委員、前田委員、安木委員、上萬委員、牛尾委員、藤井委員）  
（欠席：岡本委員、音田委員、新田委員、田島委員、坂本委員、大西委員）

〈事務局〉生涯学習・スポーツ課：神谷次長、山本係長、大下主事、後藤主事

協働推進課：谷口課長、宮崎補佐

※発言内容について、事務局で一部加筆訂正しています。

#### 1 開会 午前10時

#### 2 あいさつ （神谷次長）

#### 3 会長及び副会長の選出

〔事務局〕 会議の進行について、会長がまだ選出されていないのでそれまで事務局が進行する。

「鳥取市公民館条例」「鳥取市生涯学習推進協議会設置要綱」には、会長及び副会長は委員の互選で定めるとある。なお、社会教育委員には条例上会長の規定はないが慣例により兼務いただきたい。選出にあたり提案はないか。

（委員） これまで長年にわたり鳥取大学の土井先生に会長としてご活躍していただいた。しかしこの度、社会教育委員をご勇退されたので、鳥取大学からは後任として竹内先生をご推薦いただいている。また土井先生からこれまでの経過や思いをお伝えいただいていると伺っており、竹内先生も社会教育について造詣が深い先生でもある。ぜひ会長としてお務めいただければと思うので、ご推薦差し上げたい。いかがでしょうか。

（承認）

（事務局） 事務局としても、昨年まで会長を務めていただいた土井先生から竹内先生へ注意事項等いろいろお伝えいただいていると伺っているのでぜひ竹内先生にお願いしたいと考えている。では、ご承認いただいたということで、竹内先生に会長をお願いしたい。

また、副会長について、ご意見等ありますでしょうか。なければ事務局一任でよろしいか。

(異議なし)

では、事務局案として、副会長を山根委員にお願いしたい。

(承認)

〔事務局〕 会長、副会長から御挨拶をいただきたい。

〔土井委員・懸樋委員〕 あいさつ

#### 4 確認事項について

これ以降、竹内会長が議長として進行

(1) 社会教育委員・公民館運営審議会委員、生涯学習推進協議会委員の位置づけと役割等について

(事務局説明) 資料1 社会教育委員の手引き(基礎編)(応用編)

(委員) 委員の役割や審議事項のことだが、この2年の任期の中で諮問答申をすることがあるか。

(事務局) いまのところは決まっていない。ただ、過去には諮問答申を行ったことや、諮問答申とはいかなくても会議として何らかの提言をしていただいたことも過去にはある。今回も、これから説明させていただくが、色々施策を進めていくなかで、委員のみなさまの意見を頂戴したいので提言という形で議論をまとめていただきたいということも考えている。

(会長) この会議の役割を確認しておきたい。この会議には鳥取市社会教育委員会議、公民館運営審議会、生涯学習推進協議会という3つの役割があつて、それぞれに違った根拠規定がある。諮問答申は社会教育委員としての役割で、教育委員会に対して提言もしくは諮問にこたえるものである。2つ目の公民館運営審議会委員で、中央公民館長である生涯学習・スポーツ課長にたいして、意見を申し述べるものである。3つ目が生涯学習推進協議会で、取市生涯学習推進本部長である市長に対して市全体の生涯学習に関する提言を行うものである。このように3つの違う提言ができるということだが、いずれにしても同じ社会教育のことなので、一緒に議論するというのが私の理解しているところである

(会長) 他にあれば。

(委員) 後から説明があるかもしれないが、事前配布で送っていただいた資料には、鳥取市の場合には社会教育主事をおいていないと書いてあつたように思う。なぜ置いていないのか。

(事務局) 厳密にいうと、生涯学習・スポーツ課のなかに社会教育主事という職員はおります。おそらく見られたのは平成29年度鳥取市社会教育委員会議答申かと思う。生涯学習・スポーツ課には社会教育主事がいるが、地区公民館職員の中には社会教育主事として任命されている方はいない。答申の趣旨は、任命されなくとも、社会教育主事講

- 習を受けることで、職員の能力向上を図ることが大事であるというものである。
- (委員)他府県をみると学校関係者、教員が社会教育主事を持たれる方が多い。鳥取市の場合には、また別の委嘱ということか。
- (事務局)そうですね。社会教育主事が任命資格ということもある。公民館職員に対しては、社会教育主事講習の受講を推奨しており、職員の能力向上をはかっている。ただ、任命までするかというところまではしていない。あくまで教育委員会の中では、ここ最近の傾向ですと1名、任命をしている。
- (会長)そのあたりは社会教育の専門職とは何者か、そういう人材をどう配置していくか、ということでのこの会議で議論していければと思う。

## 5 議題

### (1) 報告事項

#### ① 生涯学習推進基本方針に基づく各種施策の実績報告および実施計画について

(事務局説明) 資料2 生涯学習推進基本方針パンフレット

(会長)何かご質問のある方は。

(委員)前任の社会教育委員が行った答申の結果を教育委員会で協議し、中長期の計画に反映した事例が生涯学習推進基本方針にあるか。それとも初年度に計画したものをPDCAサイクルのなかで実施しているのか。

(事務局)答申はそこまで反映されていない状況にある。基本的には生涯学習推進基本方針の基本施策ごとに、各課がそれぞれ実施している事業を分類してまとめた資料になる。後ほどご説明させていただくところもあるが、生涯学習推進基本方針の計画年度は平成28年度から令和2年度の5年間になっている。前回これを策定するとき社会教育委員会にお諮りしながら作ったという経過がある。今後は、第2次生涯学習推進基本方針の最終年度と重なってくる任期の後半で、第2次生涯学習推進基本方針の次の計画について反映の仕方やこれをどう取り扱っていくかということをご意見いただければと思っている。

(会長)先ほどの役割とも関係してくるかと思うが、教育委員会に対する答申をするようなかなり大きな議論的なものと、実務上の具体事業をどうするかという、少しレベル感の違う話を同じこのメンバーで議論していくということになる。

(委員)資料2の見方は。

(事務局)ここをずばり見てほしいとお示するのはなかなか難しい。見方としましては、一枚めくったところに、真ん中に表をつけている。指標自体の説明については左側につけており、AAからA,B,C,D,Eという順に評価なしとなっている。そして、指標に基づいて、計画に対してどのくらいできているかという観点から各課で判断し指標をつけていただいている。そして真ん中の表を見ていただくとわかるように、概ねAやAAになってきているという状況にある。具体的な内容については、この先

以降の各課の個別の事業ごとの事業計画、事業実績をご覧いただければと思う。これだけ多くの事業をどう分析してフィードバックするかというのがこれまでの毎年の課題である。この表自体は、いま鳥取市が全庁的にしている事業を取りまとめて、現状を把握するだけにとどまっている状況である。それから評価の指標に関しても、数値で判断しているところがあり、はたしてそれでよいのかという議論は毎年考えているが、なかなか実行に移せていない。今後、次の計画に向けて活用の仕方を我々も考えていかなければならないと考えている。

(会長) そうですね。AやAAのところが多くなれば良いがBやCの評価を受けているところは何かしらの課題があると思うので、それが改善されているかどうか見るというのがこの表の見方かと思う。あとは皆さんがそれぞれで活動されている各団体の関心事項もあると思いますので、それを部分的に見ていただいて、ご意見を頂戴できればと思う。そして、それもあるべく些末なものにならないように、大局的な立ち位置でこの場では議論できればいいかなと思っている。いろんなご意見を、次回以降までに事務局に挙げていただければと思うが、もしこの場ですでに気づいた点等あればご発言いただければと思っている。いかがでしょうか。この後のこともあるので、次に進めさせていただく。

## ② 地域組織のあり方検討について

(事務局説明) 資料3

(会長) まず質疑等を行いたいと思うが、いかがでしょうか。

(委員) 事前配布していただいた資料を読むと、この資料(公益社団法人全国公民館連合会発行『公民館は、どう「語られて」きたのか?』、平成30年10月1日発行、第40回全国公民館研究集会東京大会特別配布資料)と答申書というのは非常に合致した形で社会教育あるいは公民館活動を認識して議論しておられるのだなと感心した。今、ご報告いただいた内容をみると、地域が悩んでいるまちづくり協議会とのありかたの部分について、教育委員会の独立性を行政的にも維持しているわけですから、この答申書の中にもその線引きというのが見えてくるような気がしている。その中で、地域組織のあり方検討とは、去年絶えず社会教育委員会議で報告され、議論され、同意されたうえで出てきている内容と理解してよいか。

(事務局) 昨年度の社会教育委員会議では結論をいただいたことはない。どちらかという報告が主だったと認識している。その中では、答申の中でご意見をいただいたように、社会教育がどのようにかわるかという視点は非常に大事だということでご意見をいただいた。それからさきほどもとりあげたように、指定管理の部分でいろいろご意見いただいている。そして、それが良いか悪いかというご意見もたくさんあるが、鳥取市としては一律に適用するものではないということは先ほどもご説明したとおりである。そのあたりの意見と現場の意見をうまく組み合わせながら何が地域にとって良いのかという答えを見つけていきたいと現段階では思っている。

る。最終的に決まった制度の運用が今後始まるのであれば、そのときには社会教育委員会議でいただいた意見や試行的な制度での取り組みの成果や検証結果というものをしっかり踏まえてやっていくべきではないかと考えている。

(委員) いまお示しいただいている地域組織のあり方については、いろんな取り組みを一昨年くらいからされていて、最終的に昨年12月2日にフォーラムを開き成果を発表されて、この2月の事業につながったのかなと理解しているところではある。しかし、それが非常に閉じた状態での議論ではなかったかと私どもは見ている。教育委員会はそのフォーラムについて主催という立場にあったのか？管轄である公民館のあり方についてずっと議論されているわけですから、教育委員会も参画されたうえで現在のような状態になっていると理解してよいか。

(事務局) そうですね。検討を進めていくうえでの内部の会議については基本的に生涯学習・スポーツ課と協働推進課が一緒になって行っている。また、先ほども申し上げたように地域に出かけての意見交換も基本的に同席して、社会教育の視点から説明をさせていただきながら進めている。

(委員) では、昨年12月2日のフォーラムには社会教育委員の方も参加されたのか？

(事務局) 社会教育委員の方には案内をさせていただいた。誰が来られたかについては、申し訳ないが、いま手元に資料がないためお答えできない。

(委員) その昨年12月に行われたフォーラム自体が非常に閉じたもので、関係者しか参加できなかった。鳥取市では住民自治の基本を参画・協働ととらえている中で、参画の仕組みがきちんと見えてないようなものが非常に多くて、非常に閉じた世界での議論が進んでいるように、昨年ずっと見受けさせていただいていた。なので明治の場合でも、肝心の公民館がこうしてまちづくり協議会の中に組み込まれてしまっているわけですね。これまで答申書の中ではそういう線引きをして、社会教育、生涯学習という分野で位置づけてきておられるのに、ちょっと違うんじゃないかなと感じたものですから質問させていただいた。

(委員) 私が住んでいる地区にも公民館とまちづくり協議会、両方ある。これまで公民館でいろいろ実施されてきていたものが、まちづくり協議会ができたために二本柱になってしまっているような状況になっている。公民館の職員が実際には業務をやっているわけですから、公民館の事業とまちづくり協議会の事業とを分けてやらなければ職員が困っているという実態がある。今回、提案がされておりますように、組織の一体化と一括交付ということを示されたわけでした、これは非常に良いことではないかと思う。やっぱり同じことをやるんですから、一体化する方が良いのではないかと思う。しかし、いま見せていただいている明治郷づくり協議会の組織図を見ると、公民館とまちづくり協議会が一体化する中でまちづくり協議会の方が主体になってしまっていると思う。これをわざわざ本日提示されたということはこういう形の方が望ましいと判断されているのかどうかをお聞きしたい。

(事務局) 現時点ではどこの地域でもこの形が必ず望ましいということでは考えていない。

(委員) 現時点では試行ということですね。

(委員) はい。あくまで試行的な制度の中で明治地区がこういう取り組みをされているということで報告させていただいた。この仕組みでうまくいくかどうかをいま取り組みの中で一緒に検証していこうというスタンスでいる。その結果としてこれがすぐうまくいったということであれば、成功事例として共有することも当然必要だと思っている。

(委員) これを逆にするとおかしなことになるんですよ。公民館が主体となってまちづくり協議会がそのなかに入るというのは組織として難しい面もあるのではないかなので、一体化するとなるとどうしてもこういう組織図みたいにならざるを得ないのではと思う。

(事務局) まさにおっしゃるとおりである。地域づくりとは行政が主体となって行うものではなく、地域住民が主体となり行政と協働してやっていくという形を鳥取市は考えているので、公民館が何もかも考えてやるというのは望ましくないと考えている。そういう中で考えられた組織がこの形になっているというのは一つの流れになっているところもあるのではないかなと思っているので、そこはしっかり検証を続けていきたいと考えている。

(委員) 公民館運営委員会の条例が鳥取市にあり、それをもとに各地区公民館の運営のあり方が規定されていると思うが、そこには明確に委員の数を20人以下と規定されている。しかし各地域、特に新市域においては旧町村の体制の中で来ているので、人数的には50人を超えるような人が委員をしておられるところもあると思う。まちづくり協議会はもともとそういう形で地域全体でできるだけ盛り上げようということで作られた組織ですから当然そうやって重なってしまっているんですね。なので、そこで委員に両方を兼ねていただいていることについて問題点を提示されているということがなんだかおかしい気がしている。まあそれは教育委員会の方も認識・把握されてやっておられるのだろうと思っているが、本来は全く違う運営組織であるべきだったのではないかと私は思っている。各地区の運営状態についてはしっかり教育委員会で把握されているのかどうかお聞きしたい。

(事務局) いまおっしゃったとおり、公民館運営委員会については館長が委嘱し、20人以上と条例でもうたっている。じゃあ具体的に教育委員会の方で各公民館の実態を承知しているかという正直把握できていないのが現状です。今回のフィールドワークの中でも、委員を兼ねているという話からいまの流れになっているが、そのときに具体的な部分について詰めきれていないというのが現状である。そこは課題として受け止めさせていただきたい。

(会長) すでに次の段階に入りかけているくらい議論が盛り上がっているんですけども、現状報告という形で市の内部の検討状況がこの会で報告されているということに

意味があるかなと思っている。ここでもし今までの委員会での意見が十分に反映されていないのならこの段階で我々としてどう提言していくかというのがこれからの議題になってくるかと思うので、次の協議事項に入りたいと思う。まずは事務局から説明をお願いする。

#### 協議事項

- ③ 社会の変化に対応した地区公民館のあり方について
- ④ スケジュール等について

(事務局説明) 資料4 資料5

[会長] ここからは協議事項ということで、地区公民館のあり方の検討について今日議論をつくすことは到底無理なので今後どう進めていくかということや、教育委員会から挙げて頂いた論点について今日の時点でご意見を皆さんからいただければと思っている。今のところ事務局としては、教育委員会からの諮問というかたちではなくて、こちらの委員会側からの提言という形でとりまとめたらどうかと思っている。その辺も含めて、この会議をどう進めていくか何を議論していくべきか皆様のご意見をお伺いできればと思いますが、いかがでしょうか。

[委員] さきほどお話を伺った中でも学校との連携というのがでていた。たしかに生涯学習の中でも学校が基盤になって連携して実施していくというのも非常に大きいと思うが、現場の話をよく聞きますと例えば一つの校区内に複数の公民館があるため現場としては非常に難しいという地域もあると話には聞いている。これについて現状では行政としてはどのように考えているのか。

(事務局) 鳥取市内はおおむね公民館と学校とは1対1なのだが、いまおっしゃったように一部、特に新市域になると複数の公民館に一つの小学校という事例が出てくると思っている。実際にいま進めているモデル事業については、公民館と小学校が1対1になっているところをまずは中心にやっているんですけども、今後そこは課題になると思っている。ただ現時点の考え方としては、あくまで学校を拠点としてその地域がつながりをもって子どもたちの成長を支えていくという視点からすれば、目標は館ごとに別々ではなくて、その学校を拠点とした地域の中で同じ目標に向かってやっていくというのができるのであれば、公民館同士が連携して目標に向かって取り組んでいくという形がとれないかなと思っている。あくまでそれは理想として思っているのであって、具体的にこうしようという案はないのだがそういう取り組みは小学校を基本としてやっていくことはできないかなとは思っている。

(会長) 鳥取市の市域はとても広がっているので、地域ごとにいろんな課題がある中で、市域全体でみれば一部の地域の公民館の問題というふうにもみえる。そこで語られる問題が他の地区にも何か示唆があるかもしれない。なので、学校と複数の公民館だと連携が難しいところがあるとおっしゃいましたけれども、それは具体的

にはどうということなのか、議論を進めていく必要があるんじゃないかということは聞いてて思いますが。

(委員) ひとつにはこの会には専門的な立場におられる方が多いが、地域住民の意見を反映するという部分において果たして、まあ一対一が一番いいのではないかと私自身は思っているが、そういう中でそういう声も聴いているものだからお聞きしてみました。

(会長) もしかしたら一対一がいいという意見もあるので、この委員会で各小学校区に一つの公民館を無理に新設すべきだという意見も言えなくはないですよ。そういう総意になるかどうかは別にして、そういう意見は重要かと思う。

(委員) 私も実は学校と地域のネットワーク化をはかる活動をしている。もっと私が考えなければならぬと思うのは、いま課題を解決するためにどうしたらよいかではなくて、やっぱり中期、5年後10年後を考えて動くということである。今の急速な社会の変化というのがありますよね。政府も society5.0 というのをうたっている。今後はあくまでも人間中心の社会となることが求められている。つまり言葉を変えるとすると、人間が物と絶えず共有化していく、人間同士の共有化、人間と物の共有化をこれからどんどんはかかっていかなければいけない。これは地域もあてはまるし、学校も当てはまる。このように社会情勢が目まぐるしく変化する中で、ノーマルに学校教育が進められていって、そのときになってから学校や地域があわてふためいてもダメなんですよね。だからいまからそういうことを予測して進めていくことが求められる。そして現在の働き手のみなさんは働き方が変わってくる。それから高齢者は高齢者なりにどう社会に貢献していくかどう地域に貢献していくのかということを考えていかなければならない。それがこれからやってくるだろう society5.0 に向かう姿勢だろうと私は思っている。そして今から10年前にでてきたまちづくりであるが、これはこれで一定の成果はあるものの課題がある。それは、社会教育の拠点であるはずの地区公民館の職員にまちづくりの仕事が重くのしかかっているために毎日の事務に追われて、一番肝心なひとつづくりといった基本を忘れていないかということである。

(委員) 私の地区では、様々ないきさつを経て、今年になってから、みんなでもう一度やろうじゃないかという機運が高まっている状況にある。新しくできた地域ということもあって、わりとすんなりとまちづくり協議会に入った。そして、私たちが習ったまちづくり協議会という図式は、まちづくり協議会が上にあって、公民館、自治会、いろんな各種団体、学校を含めて、まちづくりが今言われたようにひとつづくり、まちづくりの仕掛け役になっていくんだよというのを習った。けれども、こういう会議にでたときに、伝統ある小学校と、うちのような地域の小学校とでは、全く温度差があるように感じる。また、公民館職員も異動や退職で人が変わっている中で、さっきの公民館職員の能力向上についてもだが、館長会や主任会でちゃんと



下ろされているのかなと疑問に思っている。私が社会教育委員をしてるなんて全く知られていない。なので、私がものも言えない。そしてうちの地域は各種団体のチラシを作成してもらうことはあっても、お金を預かってもらうことはない。というのは公民館職員はそういう煩雑な雑務は抜いて、各団体、自治会もまちづくり協議会も独立しなさいと習ったのでそのとおりにしている。ただ、主任は確かにあちこち回っておられて、ここは主任に聞かないと連携が取れないといった状況もあったりするくらいとても大事な役割を担ってくださっている。各種協議会も割と独立してお金も預かってもらっていない。なので他の公民館、ほかの地域のことをお聞きすると、うちは良いのか悪いのかよくわからない。あまりにもここで議論される公民館と離れている。公民館には行くが、場所を借りているという考え方でいてくださいと習ったので、そのようにしている。ただ、ほかの地域では、公民館長が各種団体の会長をされて、一緒にまちづくりを進めているところがある。そういった地域ではあんまりにも職員が大変すぎるので、うちはいい感じなのではないかと思っている。だが、公民館と学校との連携はなかなかできていないというのが現状である。

(委員) 各種団体のいろんな雑務について、も公民館が全部背負っているところが比較的多いのではないかと思う。しかし、やっぱり公民館のありかた、公民館職員の進むべき道というのはあると思っている。ですからまちづくりは何のためにあるのか、やっぱりひとつづくりですよ。ひとつづくりとなると当然地域の中に公民館があり、地域の中に学校もあるんですよ。で、学校は当然教育の場ですからひとつづくりですよ。学校も含めた地域のひとつづくりということをやっぱり考えていかなければいけない。そうなってくるとおのずから地域と学校とのつながりは強固になっていかなければならないと思うんですよ。来年の3月、江山学園ができるので、神戸から学校がなくなる。これは神戸だけの問題ではない。中山間地域では自分たちの地域もそのような状況になるのではないかと不安に思っている。そのために地域の人たちは何をしておられるかという。地域をあげて学校を守っている。地域を挙げて子供をつくっていこうという運動をされている。まさしく学校を核とした地域づくりをされている。これは、大きな学校を擁する地域から理解を得るのが難しいかもしれない。しかし、その学校も地域も、これから5年後10年後になったら少子高齢化で恐らくその学校も人数が減ってくる。ということは子供も含めてではあるが、やはり高齢者がどうかかわっていくのかということである。いま学校に関わっている高齢者はほんの一部である。それから地域の自治活動にかかわっているのも一部分だと思っている。今学校は垣根を低くするためにスクールカフェなどいろんなことを空き教室を利用してやっています。公民館も結構人の出入りが多いように見えるかもしれないが、それは一部の方だけで、あとの人はみんな家におられる。こういう人々をどうすくい上げていくか、これが課題だと思いま

すよ。やっぱりそういう人たちにどんどん地域活動に参加していただく。地域活動に参加していただかなくても、学校で子どもとともに動いていただくなど、何らかの形で地域住民の方が年代問わず地域に関わるような仕掛けをまず公民館がしていかななくてはならない。それが人づくりというものだと思う。だから協働のまちづくりも何を目的にするか。ひとづくりをこれから5年後10年後を見据えながらやっていただきたいというのが一私見です。みなさんのご意見をお聞きしたい。

(委員) 私の地域でも、学校を中心に地域の人たちで子どもを育てていこうという思いをもって活動している。わりとうまくいっている方かなとは思っている。

(委員) やっぱり地域と学校のつながりを考えたときに、活動の母体となる地域と学校をつなぐ組織というものが必要になってくると思う。複数の公民館がどう連携していくのかということ考えたときに、核となる地域学校協働本部を立ち上げて、そこを中心に学校と地域とがより連携していことが必要だと思う。なので地域学校協働本部を積極的に作っていくことが僕は望ましいと考えている。

(委員) さきほど学校を中心に地域の人たちで子どもを育てる活動をしているとおっしゃった。それは、公民館の方から働きかけを行われたのか、学校の方から公民館にこういうふうにしてほしいという要請があって活動ができたのか、どちらでしょうか。

(委員) 公民館には依頼しなかった。最初はやっぱりあて職を一切やめようと考え、それぞれの地区で過去に学校教育に対して熱心にかかわってくださった方全員の家を個人的に回ってお願いした。そのあとで学校がお願いするのではなく、コミュニティスクールの運営協議会委員の総意として、公民館に入ってもらわないと、それぞれの地区公民館長全員に入ってもらわないとコミュニティスクールはうまく動かないですよとなることを期待していた。公民館長全員に入ってくださいまで2、3年かかった。お願いに上がっても、断られることがずっと続いた。いまは入るのは当たり前だという形でうごいていただいていると思っている。

(委員) 校区内に複数の公民館があるとなかなか難しいのではと思うのだが。

(委員) むずかしいです。たとえば学校が統合した当初も、小学校がなくなった地域の保護者・住民は「新しい小学校はわたらの小学校ではない。わたらの小学校はあれだけ」と建物しか残っていないんですが、それを指さされる。「とても統合してできた新しい小学校まではようでません」といわれる。実際問題、免許返納されたお年寄りがバスで行こうと思ったら、往復したらおおかた2000円くらいかかります。それは自分で負担して学校に協力してくださいとは言えない。だからどうしてもお願いするときは学校は近くにある公民館との連携が強くなっていく。するとますます離れている公民館との連携は薄れていくというようなことがあって難しい。

(委員) 私のところも同じである。複数の公民館がうまく連携できるかなどうかなと思いつながら聞いているところ。

(委員) 公民館長は月1で集まられて情報交換やブロックとしての動きについて話し合っているとお聞きしているので、公民館同士の連携はそろえようとされていると思う。しかし、あまりにもそれぞれの地区が違いすぎますので、結局は情報交換をしても、それぞれで取り組みをされておられる。

(委員) そういう地域事情が色々ありまして、公民館長同士のなかでも非常に意見がまとまらない部分も実際にはたくさんある。新市域と旧市域では地域事情が違いますし、同じようにまちづくり協議会のとらえ方も地域によって違う。市もこういう企画でこういうことで進めたいといってもなかなか前に進まないというのが実態である。だから皆さんの意見を頂戴しながら調整しながら一步一步進めていかなくてはならないというのが公民館連合会としても非常に大きな課題となっているところ。

(委員) 方向性としては正しいと思うが、実際問題なかなか難しいと思う。

(委員) 僕は一つ一つの公民館を回ってやっていかないといけないと思う。こっちの公民館とこっちの公民館を合わそうといったってそれはなかなか難しい。

(委員) まあ基本は公民館単位で考えていかないといけないわけですけどね。

(委員) そうだと思う。まあ全部集まっているんな話が出るなら別ですけどね。実際やろうと思ったら地域地域でやってかないと。それが根本だと思う。

(委員) そうですね。皆さんも自分の地域の公民館を知って、いろいろご意見いただきたいと思う。

(会長) 時間の方も押してまいりました。いまのように各地区によって実情が異なるということがあるので、この議論をどう深めていくかということについて議論していきたいと思う。まず今後のスケジュールについて事務局の方から説明していただきたい。

(事務局説明) 資料5

(会長) このスケジュール(案)で示していただいているとおり、今のような議論を人数を絞った形でさせていただいて、また全体の会議でもんでいただきたいと考えている。前回の答申の際も同じようなやり方をされたということで踏襲したいと考えますが、進め方についてはよろしいでしょうか。

(異議なし)

(会長) 小委員会のメンバーを決めることについてはこれはまた一苦労かと思いますが、事前に事務局と話しをさせていただいた中では、委員名簿の中の各委員区分のなかから1~2名出していただくというイメージかなと思っている。いかがでしょうか。今日はご欠席の方もおられるので、この場で確定というのは難しいかもしれませんが、そのような人選についていかがでしょうか。

(委員) 事務局の方で会長副会長と協議して指名されたらどうか。互選はないでしょう。

(会長) それでは一任いただいて個別に連絡させていただくということでよろしいでしょ

うか。

(異議なし)

(会長) そうしましたら今年度は7～9月と9月ないし10月の頭くらいに小委員会を2回開催した後に、10月11月くらいに全体会を開催するというのでよろしいでしょうか。年度末には提言を出せるかなと思っている。それと来年度に関しては、先ほども話題にあった生涯学習推進基本方針の次期計画として第3次生涯学習推進基本方針を策定するというスケジュールになっていますので、そちらの議論の方に引き続き移っていくという形になると思っておりますが、このような進め方でよろしいでしょうか。

(異議なし)

(会長) それではこの会としての全体的な議論についてはこのように進めさせていただきたいと思う。以上で協議事項1, 2の方はあわせて終了させていただきたいと思うが、その他、あるいは先ほどの議論の続きでまだいっておきたいということがあれば願います。

(委員) 質問させてください。教育の中で帰属意識の問題というのは非常に大きなことだと思っている。長い目で見直しをされていくのだろうと思っているが、歴史教育のあり方と博物館の現在あるものをどうしていくかということについても検討されている資料等があれば次回にでも資料提供していただければと思っている。

(事務局) 承知しました。

(委員) どうしようもないことだが聞いておきたいことがある。事務局は先ほど全国大会や西日本大会への人材派遣について予算が全くないとおっしゃった。鳥取市の財政がひっ迫されているというのはわかりますが、なんかちょっと残念だなと感じている。なんとか来年度再来年度でも戦っていただけないかという要望です。

(事務局) 予算要求に努めます。

(会長) その他なにかありますか。

(委員) さきほど学校と公民館の関係のことがお話ででてたと思う。同じ学校に通っている児童でも、住んでいる地区によって、事業に参加できる公民館が違うという実態がある。私たちも自分のところやよく聞くところは把握しているが、それぞれの地域における学校と公民館の関係についてまではちょっとわからない。なので図みたいなのがあれば今度の話し合いで参考にもさせていただけるなと思っている。

(委員) 私のところは学校が統廃合されて新しい学校ができる。まさに今皆さんがおっしゃっている通りの展開になっていくのかなと思っている。学校中心になっていけばいいけれど、やっぱり新しい学校から離れている地域の方は遠いからなかなかでてこれなくなるんじゃないとか、そういう思いはすごくある。だから今度の4月からどういうふうになっていくのか、新しい学校はできているのに地域がだんだん衰退していく、地区同士のつながりが薄くなっていく、それがちょっと怖いな

あと思う。PTAとしては学校が中心となってもりあげてお互いの地区を引っ張っていけるような行事を作っていければと思っている。しかしPTAだけだとやっぱり保護者間のつながりになるので、地域を巻き込むためにも公民館のはたらきがすごく必要になると思う。私個人としては、イベントをきっかけにして、少しずつでも地区同士のつながりでもできればいいなと思っている。また皆さんからお話をお聞きして地域の活性化につながられたらいいなあとと思っているので、またご意見等あれば教えていただきたい。

(委員) 私は小学校に毎年出前講座を行っている。作品が完成した時にどうぞPTAも地区住民の方も見に来てくださいとっている。いままでは田舎のPTAの方が興味を示していっぱい見に来てくれたのだが、新しい地域である若葉台の方が多く見に来てくれたので意外に思ったことがある。これは地域の指導が違うんだなと思った。これはちょっと関係ない話になるかもしれないが、学校と地域との関係性に関するものだと思ったのでお話をさせていただいた。やっぱり学校が地域の方にどれだけ力を入れてくれるかということも場所によってものすごく違うと思う。

(会長) 私も専門が文化政策ですので、そういうところに文化がどう入っていいのか、地域の結びつきのところに文化芸術というものが起爆剤になればいいなあとと思っているので、そういった活動に注目したいと思っている。時間になってしまったので、最後事務局の方から連絡事項があればお願いします。

(事務局) 特になし。

(会長) 進行にご協力いただきありがとうございました。小委員会については事務局と相談してまた個別に連絡させていただきますのでよろしく申し上げます。ありがとうございました。